

ヤングケアラーに光を ～十八歳からの十年介護～

フリーアナウンサー町 亞聖

突然、私達が直面した母の介護……
介護保険もバリアフリーという言葉もなく
家族が介護をやるのが当たり前の時代
私は“ヤングケアラー”になりました。



右半身麻痺・言語障害
知能低下という後遺症

弟妹の母親代わり





踏み出す**勇氣**

当事者の声を



出来ないことではなく
出来ることを数える

ヤングケアラーが抱える課題

- ◆ ヤングケアラーと気づいてない
- ◆ 自分でやるしかないと思っている
- ◆ 学校・同級生には相談できない
- ◆ 多くは介護保険制度の対象外

自力では負の連鎖から抜け出せず

当たり前前
のことが
当たり前
ではない…

介護は家族の運命を変えていく





父親との確執



困り事の言語化

ヤングケアラー支援に必要なもの

- ◆弱音や本音が吐き出せる場所や人
- ◆置かれた環境をプラスにする思考
- ◆将来を描けるような選択肢を示す
- ◆子供だけでなく親や家族への支援

重要なのは自立のための支援

必要な**タイミング**に
必要な支援を



人生に無駄なことはない

夢を諦めない

ヤングケアラーに関わる専門職

- 学校...先生・スクールソーシャルワーカー
- 介護...ケアマネ・介護福祉士・ヘルパー
- 福祉...社会福祉士・社会福祉協議会
- 児童...児童相談所・子ども家庭支援センター
- 地域...民生委員・児童委員・保健師
- 病院...医師・看護師・ソーシャルワーカー

全専門職に必ず出来ることがあるはず

介護・福祉・教育
専門職の**守備範囲**で
線引きしない

1人の力では救えない
タスクシェアを

地域包括ケアシステム

多職種連携

重層的支援体制整備事業



試される地域力

地域住民全員が
ソーシャルワーカーに



助けてと言えていたか...



受援力を高める